

日本防災士会 千葉北

第 29 号 2017 年 7 月 1 日発行

今号の内容

北部支部定期総会を開催	1
船橋市防災女性モニター参加報告	2
防災のエース・起震車物語（下）	4
北部支部会員さん紙上インタビュー	
村岡 綾さん	8
榎本和幸さん	9
会員短信 青木信夫さん	10
北部支部の防災支援活動	10
新会員紹介	11
編集後記	11

北部支部定期総会を開催

平成 29 年度総会が 4 月 23 日（日）船橋市中央公民館で開催されました。委任状を含む 45 名の出席を得て以下の第 1 号議案から第 5 号議案までが審議され提案通り承認されました。

- 第 1 号議案 平成 28 年度事業活動報告
- 第 2 号議案 平成 28 年度会計報告
- 第 3 号議案 平成 29 年度活動計画（案）

- 第 4 号議案 平成 29 年度予算（案）
- 第 5 号議案 役員改選（案）

平成 28 年度の事業活動報告では活発な地域防滅災力向上支援活動の様子が報告されました。また会員の知識・技能向上のためのスキルアップ活動と北部支部ホームページ開設、本部ホームページへの積極的な活動情報の発信、会報の定期発行などの広報活動について報告がなされました。

平成 29 年度の活動計画では地域防滅災力向上支援活動を継続しながら各地区の自発的な防災活動を促してゆくこと、支部ホームページ、本部ホームページ、支部会報などを通じた広報活動を活発に展開してゆくこと、支部のパンフレットを作成することなどが提案され承認されました。

また次の方が新たに支部幹事として役員に任じられました。（敬称略）

- ◇ 新井勝美
- ◇ 小椋養一
- ◇ 白川 恵
- ◇ 中村あや子
- ◇ 村岡 綾

総会では平山優子防災士より船橋市防災女性モニターの活動報告が行われました。

総会に続き船橋市危機管理監の安藤正一氏による「災害が多発する時代における船橋市の防災施策」と題する講演が行われました。「災害は忘れたころにやって来る」と言われた時代が今は「災害が時々やってくる」時代となり、約 63%に人たちが大災害が起こると考えているが災害への備えをしている人は 37%に過ぎない実態が紹介され、防滅災活動が大切であることを改めて確認しました。

講演会の後は新しいメンバーを交えた有意義な懇親会が持たれました。



支部長挨拶



講演

「平成 28 年度船橋市防災女性モニター」活動に参加して

平山優子

船橋市では平成 26 年 8 月に「防災女性モニター」が設置されました。東日本大震災で多くの避難所において「女性の視点」が運営に反映されず、女性だけでなく若者、子供、高齢者、障害者、外国人などについての様々な課題が浮き彫りになりました。このことを教訓に、防災対策に「女性の視点」を活かし防災体制の充実と強化をはかることを目的に設置されました。

構成メンバーは毎年募集され、一般公募者、団体推薦者（公益社団法人千葉県看護師協会、船橋市消防団、船橋市赤十字奉仕団、船橋市 PTA 連合会、船橋市職員保健師、日本防災士会）と学識経験者などの 11 名で構成されます。活動期間は 8 ヶ月間で防災イベント（総合防災訓練、防災フェアふなばし、防災スタンプラリー）の企画と参加、防災対策検討会（モニター会議）の開催、市長への提言書作成と報告を行います。

モニター会議の検討テーマはモニターメンバーで協議して決めます。平成 28 年度の検討テーマは「避難所運営マニュアルへの提言」としました。船橋市の避難所運営マニュアルが作成されたのは平成 25 年 4 月です。その後平成 28 年 4 月に内閣府防災担当より新たに「避難所運営ガイドライン」が発表されました。そこでは避難所運営における女性の参画とリーダーシップを促進すべきことが明確に述べられています。また災害対策基本法で規定される要配慮者に加えて、女性と子供も配慮対象者とすべきことが示されています。こうしたガイドラインに沿いモニター会議では上記のテーマについて検討を進めました。

最初に 3 つの目標を掲げました。

1. 災害関連死を出さない避難所
2. 誰にとっても健康と人権が守られる避難所
3. 本質的な復興につながるための避難所

避難所開設のノウハウだけでなく被災生活の「質の向上」をはかることが大切であると考え、提言書には以下の具体的な提案を盛り込みました。

- ① 男女共同参画の視点の拡充
- ② 女性と要配慮者のための班の創設（活動班の増設）
- ③ 女性専用多目的室の設置（人権、男女の性差についての理解）
- ④ 子供への配慮
- ⑤ 保険・医療の視点（健康管理）
- ⑥ トイレの衛生・安全環境の整備
- ⑦ 在宅避難者・車中泊避難者への対応
- ⑧ マニュアルの見える化
- ⑨ 目安や目標値の設定

提言書では多様性配慮の視点、ジェンダーに基づく偏見や不平等と男女の差別をなくし各自の力を活かすための視点、健康・衛生・治安の面で安心して暮らすための視点、女性のリーダーシップを促進するための視点を取り入れ、「ジェンダー、人権、男女共同参画」を強く訴えています。

提言書の結びでは「今やるべきこと、今後の対策への提言」として①女性防災リーダーの発掘と育成（人材育成）、②女性防災リーダーに対する活動支援体制の検討、の二つが急務であることを述べました。これはモニター会議で検討する中で、多様な人々を配慮した地域防災のありかたを考え女性の声を届けるために女性防災リーダーの養成が重要であり、学びと実践の場を提供することが必要であることが明らかにな

ったためです。私たちが提言で主張する内容を理解していただける人が増え、市民を守る対策の実行に「今」から結び付いてゆくことが私たちの切なる願いです。提言書には市民の皆様へのそうした思いが込められています。

防災のエース・起震車物語(下)

起震車とは「地震を疑似体験できる装置を搭載した車」のことで地震体験車ともいわれる。起震車を製造提供する会社は日本国内に3社あり、最初の起震車が納入されたのが約30年前で現在に至るまでに推定累計300台ほどが国内に納入されていると思われる。ただし初期の旧式タイプや老朽化で既に廃棄された車両などを差し引くと、現在現役で稼働している台数は100台前後と推定される。購入者は官公庁や企業などで個人での購入は北部支部の青木防災士が恐らく初めてのケースであると思われる。それでは青木防災士が所有する起震車について紹介する。

青木防災士が今回購入機を選んだ理由は？

- 2トン車のため小型で取り回しが良いにもかかわらず、十分な震動スペースが確保されていること。
注：国内では2トン車、3トン車、4トン車などが販売されている。
- 起震装置の駆動用電気をバッテリーから供給するため、震動中に発電機（専用エンジン付き）を運転して電気を供給することが不要でエンジン排気ガスによる環境への影響がなく屋内での震動運転が可能になること。
注：震動運転中に専用エンジンで発電し起震装置へ電気を供給する方式もある。
車載発電機の供給電源は低電圧で起震装置の駆動電源としては使えない。
- 起震装置がサーボモーターで駆動されるクランク・カム方式でより精度の高い地震波形が再現できること
注：他に油圧シリンダーの前後運動で地震波形を再現する方式や、サーボモーターによるボールねじの回転運動を直線運動に変えて地震波形を再現する方式がある。

購入で苦労したことは？

起震車は基本的に法人や官公庁向けの製品であり個人への販売は想定していない。事故などへの懸念がありメーカーは最初青木防災士への販売を辞退したが交渉を進める

中で青木防災士の熱意を理解し販売に協力してくれた。

どのような地震体験ができるのか？

震度では：4，5弱、5強、6弱、6強、7の各階層が体験できる。

地震波形では：過去と未来の地震が体験できる。

- 東北地方太平洋沖地震
- 兵庫県南部地震
- 新潟中越地震
- 関東大地震
- 想定首都直下型地震
- 想定南海トラフ地震
- 想定中央構造線地震

波形データは気象庁から入手する。

安全対策は？

誤操作防止ボタン、非常停止ボタン、体験室内の画像スクリーンなどに人間が接近し過ぎた場合に衝突の危険を検知し自動停止させる赤外線センサー装置、昇降ステップのスリップ防止などがある。なお起震車を運転・操作するための特別なライセンスや資格は不要で当該車両の運転免許証があり操作手順を習得すれば運転・操作ができる。

トラブル経験は？

バッテリーの消耗が早過ぎるという問題が出たが、調査の結果バッテリーの一部に不良品が混入していることがわかりそれらを交換して解決した。また起震装置を車台に固定するボルトの1本が破損し交換した。その他は故障なく現在まで稼働している。メーカーが年に1回、オーバーホールによる点検と整備を行う。

青木防災士の発案で性能アップ

バッテリーは1回の充電で約8時間稼働できる。充電は家庭用コンセントから行う方式であるが、青木防災士の発案でバッテリー専用のオルタネーター（発電装置）を追加搭載し、これを車載エンジンで駆動してバッテリー充電ができるように改良された。これにより車両走行中に自動充電が可能となり使い勝手が飛躍的に向上した。この方式は起震車のオプション機能としてその後商品化されている。

起震車のスタッフと役割分担は？

通常以下の3名～4名で行う。

- 1名：起震装置起動と非常停止ボタン操作
- 1名：体験希望者の体験室への案内と出入りの安全確保
- 1名：体験希望者の搭乗順番の管理と誘導、荷物の管理
- 1名：順番待ちの人たちの整理、誘導

事故やトラブルの防止のために緊密なチームワークと現場に即した臨機応変の対応が大切である。人が相手なのでスタッフには細かい気配りが求められる。

震動運転で注意すること・苦勞することは？

- 事故防止が最大の優先事項なのでさり気なく細心の目配りを忘れないこと。
- 搭乗を遠慮してもらい以下の人たちのチェックを行うこと。
 - 乳幼児（1歳未満）
 - 飲酒をしている人
 - 妊婦
- 1回の搭乗者は安全上4名に制限されているので搭乗者を4名単位のグループにまとめること。その際にトラブルにならないようコミュニケーションには十分な気配りが必要。
- 立った時の揺れを体験しようと体験中に立ち上がる人がいるので注意が必要。

青木防災士の起震車の活躍ぶり

運用開始から約2年2か月間の運用実績を主な数字で表すと次のようになる。

- 運用開始：2015年2月
- 出動回数累計（2017年5月11日現在）：84回
- 走行距離：約12,000km（東京～博多を約6往復）
- 体験者（搭乗者）累計：14,038名

この間BCNの10名のスタッフの他、北部支部や首都圏支部などの多くのメンバーが運用に関わってきた。なお青木防災士の起震車の外装は清潔感と安心感にあふれるウオーターブルーと白の配色であるがこれは青木防災士の希望をメーカーがデザイン化したものである。

地震疑似体験が家具転倒防止などの具体的な防災行動に結びつくよう工夫と努力を重ねることが今後も課題と思われる。その一助として起震車メーカーではゴーグル装置

を導入してよりリアルに地震疑似体験ができるようにすることや、幅広い防災教育用映像プログラムの提供（家具転倒、地震のタイプと被害、火災、水災など）を考えている。更にパワーアップした防災のエース、ウオーターブルーの起震車が活躍することが期待される。



防災のエース・起震車



準備作業



震動運転スタート



整理作業



撤収作業

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

村岡 綾（むらおか あや）さん



Q.ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A.長崎県佐世保市出身です。

神奈川県を経て2011年に千葉へ転居しました。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.総務、営業、経理、医療事務などです。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A.赤十字救急法救急員、AED管理士、BLS（心肺停止時の救急救命）プロバイダー、医科医療事務管理士などです。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.消防団の仲間に防災士がいます。防災士の活動は幅が広く、子供から年配の人まで多くの人たちが防災・減災の活動に関われることを知り関心を持ち、日程がうまく合ったので故郷の長崎に飛んで防災士資格を取りました。

Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.地域の消防団に所属しています。

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.藤沢市で独り暮らしでした。計画停電や交通の不便さを経験しましたが、被害の大きい地域のことを思えば大したことはない・・・と、大分我慢強くなれたと思います。その年に千葉に転居し地域のことを知りながら活動したいと考えて消防団に入団しました。

Q.今、はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.2年前から空手をやっています。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

A.防災士としての知識も経験も乏しいのでスキルアップに積極的に参加し、自信をもって緑の防災士ユニフォームが着られるようになりたいと思います。そして勤務先や空手道場で防災活動ができればよいと思います。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.応急手当普及員になって「千葉市を日本のシアトルに！」

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

榎本和幸（えのもと かずゆき）さん



Q.ご出身地と自己紹介を簡単をお願いします。

A.千葉市中央区の出身で現在は四街道市に住んでいます。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.臨床工学技士として透析クリニックで勤務。

血液透析、手術室・医療機器管理などの業務と病院内での勉強会の講師や学会発表などを行っています。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A 臨床工学技士、透析技術認定士、防災士、防災危機管理者、スポーツインストラクター、ICLS（突然の心停止への緊急対処）プレインストラクターです。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.東日本大震災をきっかけにして、災害医療で大切な防災対策の見直しと防災意識を向上させたいと考えて防災士の資格を取りました。

Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.災害学会などに積極的に参加して知識の習得に努め、病院内の災害対策ワーキンググループのリーダーとして日々活動しています。

Q.身の周りの防災について特にどんな点に留意されていますか？

A.備蓄品の用意や水の貯蔵をしています。

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.勤務中でした。すぐ患者さんの安全を確保しました。病院では幸いに被害がなく透析を続けることができました。しかし東北では水、電気の供給が乏しく治療を続けることが困難な施設もあったと聞き、医療における災害対策の重要性を改めて考えさせられました。

Q.今、はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.趣味は高校時代から和太鼓を習っており、千葉の親子三大祭りやJFE祭りなどで披露しています。ぜひ観に来て下さい。冬はスノーボードをやっています。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいことやご意見は？

A.防災士の皆さんにも臨床工学技士の仕事の内容や透析医療の重要性を知っていただきたいと思います。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.行政、医療、自治体の他に幅広い方々と交流し、災害発生時には協力できる環境を作ってゆきたいと思っています。

～会員短信～

北部支部の青木防災士が日本防災士機構の「平成 28 年度防災士功労賞」に選ばれ、6 月 23 日（金）千代田区の憲政記念館で表彰式が行われました。青木防災士が起震車を駆使して長年にわたり防災啓蒙活動を全国、各地で展開してきたことに対する顕彰です。今回の表彰は 4 団体、2 個人に対して行われ青木防災士は個人表彰 2 名の中の 1 人に選ばれました。大変におめでとうございます。



～北部支部の防災支援活動（2017年3月～5月）～

北部支部は以下の防災行事に参加協力しました。
ご協力大変にありがとうございました。

- 3月3日（金） 船橋市立湊中学校救命講習
- 3月6日（月） 千代田区総合防災訓練（東京都）
- 3月8日（水） 千葉ツインビル防災訓練（千葉市）
- 3月12日（日） オール鎌倉 2017（鎌倉市）
- 3月18,19日（土、日） 幕張メッセドラッグストアショー（千葉市）
- 4月2日（日） 谷河内南町会防災訓練（東京都江戸川区）
- 5月5日（金） 船橋アリーナ「こどもの日フェスタ」
- 5月15日（月） 船橋市立湊中学校救命講習
- 5月21日（日） イースト commons 清澄白川防災訓練（東京都江東区）
- 5月27,28日（土日） 睦沢町防災キャンプ（千葉県長生郡睦沢町）

新会員の紹介

2017年3月以降、以下の方々が北部支部の会員になりました。
北部支部の会員数は88名です（2017年6月12日現在）。

名雪 均さん（旭市）	杉江潔さん（船橋市）
鈴木不二美さん（千葉市）	藤田隆雄さん（袖ヶ浦市）
渡邊一弘さん（いすみ市）	野口啓次郎さん（松戸市）

編集後記

今号は広報メンバー切り替えの時期にあたり限られたメンバーでの作成となりました。これまで広報として尽力いただいた黒田防災士、藤下防災士、平山防災士には心よりお礼申し上げます。次号からは新しいメンバーも加わり、新しい視点を盛り込んださらに魅力ある会報の作成に取り組みますのでどうぞよろしくお願い致します。

皆さまの地域でのユニークな防災の取り組みや活動を「会員短信」としてお寄せ下さい。

広報担当：茂木 宏 岩下裕二

事務局の連絡先：竹内哲志（support@bousaisikai.chiba.jp）

広報担当の連絡先：koho.chibakita.bousaisi@gmail.com